

【主な記事】

- 1 面：学長会見 12 月 27 日に決定
- 2 面：病院アンケートその2
- 3 面：医大懇報告
教育学部班でランチ会
- 4 面：宮澤・レーン事件を考える
集い報告

機関紙



ほくだい

北海道大学教職員組合機関紙

電話011-746-0967(FAX共通) / 内線2083・3994

URL: <http://ha4.seikyoku.ne.jp/home/kumiai/>

学長会見12月27日に決定

北大教職員組合は11月27日、名和豊春総長に対して以下の3つの項目に絞って会見の申し込みを行い、12月27日（水）に開催されることになりました。

1. 教員人件費ポイントの削減方策について
2. 「無期転換ルール」の適用と「5年雇い止め」について
3. 防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」について

会見申し込み書はホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

会見は、執行委員会との間で行われ、労使それぞれの立場から、大学の雇用・労働条件や研究・教育環境に関する意見交換を行います。

北海道大学
総長 名和 豊春 様

2017年11月27日

北海道大学教職員組合
執行委員長 松本伊智朗

会見の申し込み

平素から北海道大学教職員組合の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。本学ではこれまで、総長の改選、または組合の執行委員会の改選のたびに会見を行い、労使それぞれの立場から、大学の雇用・労働条件や研究・教育環境に関する意見交換を行ってきました。つきましては、このたびの執行委員会の改選に際して、下記の事項について意見交換したく存じます。おとりはからいますよう、よろしくお願い致します。

記

1. 教員人件費ポイントの削減方策について

名和総長は、山口前総長の下で立案された「第3期中期目標期間における人件費抑制のための教員人件費ポイントの削減方策について（案）」（2016年8月22日）の人件費ポイント削減率を大幅に圧縮（▲14.4%→▲7.5%）することを公約としてされました。また、2017年7月20日に教育研究評議会は、第3期中期目標計画期間中の教員人件費の見通しをまとめておられます。これらは、研究・教育への影響を小さくするものと評価することができますが、研究・教育組織の縮小と業務負担の増加を避けることはできません。また、北大の財政の見通しは、依然として厳しい状況が続いています。

当面、組織の縮小をできるだけ避けるだけでなく、中長期的な視点から大学組織の発展と安定的な財政基盤の確立をどのように図っていくのか、大学の経営責任者としての見解をうかがいたいと存じます。

12月18日（月）給与問題で人事課から説明

国家公務員の給与法及び退職手当改正法が12月8日（金）に成立し、それを受ける形で人事課から12月18日に北大の方針について組合に対して説明したい旨の連絡があり、受けました。

組合としては、給与改善部分の早期実施と退職手当の引き下げについては不利益変更反対の立場で臨みます。

【人事院勧告の骨子】

- ・月例給 0.15%引き上げ
- ・ボーナス 0.1 月引き上げ

【退職手当】

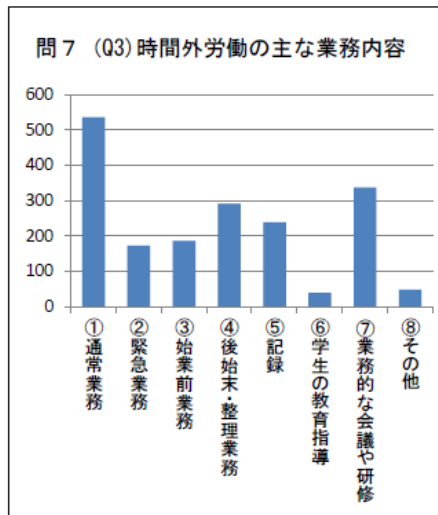
平均 78.1 万円の引き下げ
（5 年前に 400 万円引き下げ）

超過勤務の申請、研修等は未申請が19%

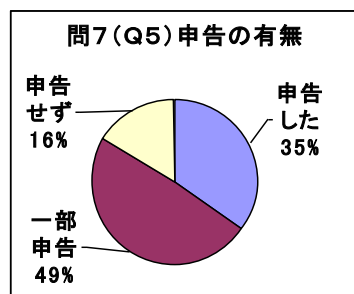
病院アンケート結果その2

「上司などが制限する」が16%!

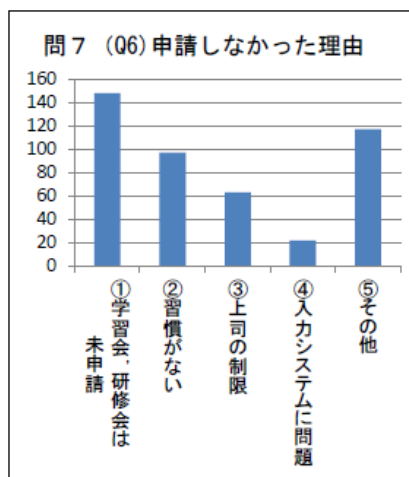
◆ 問 7-Q3 の「超勤の主な業務内容について、5つまで選んでください」では、★通常業務 536名(29%)、★業務的な会議や研修 337名(19%)、★後始末・整理業務 291名(16%)、★記録 238名(13%)など恒常的に超過勤務があることが良く分かります。



◆ Q5の「終業後の実働時間を超勤として申告しましたか」については、①殆ど申告した 171名(35%)、②一部申告した 241名(49%)、③全く申告しなかった 80名(16%)となっており、申告していない実態が浮かび上がっています。



◆ Q6の「申告しなかった理由」(複数回答)では、①学習会、研修は未申告 148名(33%)、②申告する習慣がない 97名(22%)、③上司などに制限される 63名(14%)、④入力システムに問題ある 22名(5%)、⑤その他 117名(26%)となっており、「学習会、研修」などは申告できない職場の雰囲気が伝わってきます。



◆ Q9の「時間外勤務についての要望」では、154名(27.9%)が具体的に回答しており、その一部を紹介します。

★情報収集時間は労働給与対象と考える

★3年目まではつけるな、看護要約の作成は時間外労働にならないと言われた

★毎日残業4時間、体調崩して休んだ、悪循環

★病院経営が赤字で残業を減らすように言われ申告しにくい

★学習会等も業務として認めて欲しい

◆ 問 10の「その他の要求及び組合への要望」では、97名(18%)の方が切実な要望を記載されており、その一部を紹介します。

★看護師が少なすぎる

★業務以外の報告・評価が多すぎる

★密室でのモラハラが横行している

★夜勤時のタクシー代全額出して

★マネジメント出来る人がおらず無法地帯

★危険手当つかない保障を

★改善に取り組んでほしい



7対1病床診療報酬引き下げか？

厚生労働省は12月6日、「7対1病床」への診療報酬を2018年度改定で引き下げる等、一般病床の再編案を中央社会保険医療協議会に示しました。入院基本料を「10対1病床」に引き下げて統合し、「重症患者」の割合に応じて加算するとしています。重症者の入院割合を「緩和」するのと引き換えに、**看護師を減らしていく**考えです。

これに対し、委員からは「現場が混乱する」(日本医師会)、「夜間に患者の急変に対応できなくなるなど悪影響が出る」「拙速な導入は避けるべきだ」など批判的な意見が多数出されています。

「第28回医科系大学教職員懇談会に参加して」

病院班 歯科技工士 西川圭吾

11月18、19日の両日、東京台東区谷中區民センターで、「第28回医科系大学教職員懇談会」が「安心・安全な医療、安心して働き続けられる大学病院を」というテーマで開催されました。今回、参加する機会をいただきましたので詳細をご報告いたします。



当日は全国16大学より34名が参加し、三つの分科会に分かれて協議が行われました。

協議に先立ち、山口大学の馬田哲次先生から医大懇の目的や国立大学を取り巻く現状、そして医大懇の取り組みについて基調報告がなされ、続いての基調講演では全大教中央執行委員長の岡山大学教授中富公一先生が「いじめにより命を失った子の残した日記」を基に、いじめの内容を法律に照らし合わせてお話され、私たちが社会生活を営むうえで大切な憲法や法律の成り立ちと重要性について分りやすく解説されました。

その後は各分科会に分かれて懇談が行われ、第1分科会では「看護師が心身ともに、より健康で働き続けられることができるように」という内容で各大

学の看護師による意見交換が、第2分科会では「各大学間の現状の把握と対応策、そして今後の安心安全な医療を提供していくための労働条件改善について」を多職種で情報を共有・議論をし、第3分科会では「魅力ある組合と組織づくり」と題して各大学の組合加入についての取り組みなどについての交流が行われました。

私の参加した第2分科会では主に超過勤務手当ての承認と未払いについての現状について、任期付き契約職員の雇止めに関して各大学から報告があり、それぞれの大学が持つ問題点について協議しました。その後の交流会でも議論が繰り広げられ、参加者の雇用環境改善に対する熱い思いを感じることができました。

今回初めて医大懇に参加させていただきましたが、教職員組合の役割や医大懇の目的を理解



するきっかけとなり、今回のテーマ「安心・安全な医療、安心して働き続けられる大学病院を」を確たるものにするためにも組合員ひとりひとりの意見を集約して労働環境を改善してゆく努力が大切であると痛感いたしました。



「女性教職員ランチ会」報告



11月24日（金）昼休み、教育学部班主催で「女性教職員ランチ会」を開催しました。きっかけは、職場集会の折、職員の方々の雇用、特に非正規雇用職員の方々の状況が見えない、雇用継続を心配している方もいるのではないかと声があがったことからです。「職場のこと、雇用や働き方のことなど、日頃、気になっていることをざくばらんに話しましょう」と呼びかけ、有期労働契約の情報提供もすると付記し、組合員でなくても、また関心のある方は男性も参加可能としたところ、15名（教員8名、職員7名）の参加がありました（うち男性1名）。昼休みは短く、あっという間に終わってしまいましたので、できれば今後も継続して取り組んでみたいと考えています。なお執行委員の駒川智子さんに有期労働契約と北大の状況を話してもらいました。組合ではニーズ把握のアンケート調査も実施予定と紹介され、参加者からは心強く思ったとの反応もありました。教育学部班では、組合女性部の活動再開も話題になっています。（教育学部班職場委員・辻智子）

宮澤・レーン事件を考える集い

12月2日13時より北海道大学学術交流会館・第一会議室で「宮澤・レーン事件を考える集い～思想統制と弾圧の歴史から学ぶ～」(主催:宮澤・レーン事件を考える会)が開催されました。オープニングでは昨年学内で初公演された演劇「エルムに寄せて」が一部再演され、宮澤弘幸役の佐藤駿輔さんらが熱演するとともに、北海道合唱団による合唱が披露されました。

続いて行われた最初の講演は宮田汎氏(治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟北海道本部長)による「治安維持法による道内・北大における諸事件を振り返る」でした。この中で宮澤・レーン事件以外にも、多くの学生や教職員そして中国留学生、朝鮮人学生が警察に拘引・取り調べを受け、刑に処され、



【当面の予定など】

- 12/18 人事課による給与説明会
- 12/19 戦争させない総がかり行動
18:00～大通西4丁目
- 12/26 執行委員会
- 12/27 学長会見 11:30～
- 12/28 仕事納め:1月8日迄書記局閉鎖

2018年

- 1/9 書記局仕事始め
- 1/11 道労連旗開き
- 1/16 無期転換・さっぽろ市民講座
18:30～エルプラザ
- 1/17-19 過半数代表選挙期日前投票
- 1/22-23 過半数代表選挙投票
- 1/28 道労連評議員会
- 1/31 過半数代表選挙結果公示
- 2/3 年輪の会新年会

2017 年度退職記念の集い

2月28日(水) 18:00～エンレイソウ

2018年4月1日で満60歳職員、満63歳教員、満65歳教職員、定年退職及び学外へ移動される方が対象です。楽しく、愉快地、懐かしみ、みんなでお祝いしましょう!誘い合っでの参加をお願いします。(詳細は後日)

大学を追われた事実が明らかにされました。次の講演は三島徳三氏(北海道大学名誉教授)からの「北海道農業研究会事件と学問・思想の自由」で、戦前設立された官製農業指導機関である「北海道農会」



を事務局として作られた「北海道農業研究会」の中心メンバーが治安維持法違反で逮捕・拘禁されたことについて報告がなされました。特高警察が治安維持法違反としたのは北海道農会の農業改善のための事実

に即した科学的解明で、これを潰そうとするのは「反知性主義」で、それは今の政権にも見られると指摘しました。

北海道大学で戦争中に起きた事件を掘り起こし学ぶことなくしては、戦前を思わせる現在において大学が果たすべき役割を全うできないという認識を新たにしました。(工学部班・山形)



耳寄り情報 ご存知ですか?

今年も雪が降り始め、厳冬がやってきました。「除排雪が大変!」と多くの方は思っているでしょうが、スキー好きにとってはやっとスキーシーズン到来!という感じでしょうか。

最近のスキー場では、〇〇デーと銘打った曜日で対象者が割安になる企画が行われています。特にシニアにとっては見逃せないスキー場がありますので、ちょっと紹介します。

- ★札幌国際スキー場 毎週木曜日 1日券1,500円
- ★オーンススキー場 毎週火曜日 1日券1,100円
毎週木曜日 1日券1,600円

耳寄り情報をお待ちしています。